



今後の活動予定	この後児童による防災フェスタを開催し、低学年や社会参画のできる活動をする。来年継承・発展させていく。
---------	--

実践したプランの内容と成果 (実践したプランのだけ記入する内容です)

複数のプランを実践した場合にはプランの数だけ、ここから後の 5 つの表をコピーして記入してください

必要に応じてセル(表の枠)の高さを調整していただいて構いません

「★」は任意ですがそれ以外は極力埋めてください

記入日	西暦 2020 年 1 月 7 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都市立正親小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	①
タイトル 内容を端的に示し、中身を見たくなるタイトルをつけてください。計画時のタイトルと同じである必要はありません	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら、ぼくは生きる、みんなを守る ステージ①「災害・防災ってなんだろう。」
実践担当者のお名前	辻元 博子 葉武 佐加恵

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	8 時間
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 4 月～西暦 2019 年 5 月
実践の所要時間	7 時間
実践の運営側で動いた人の人数	10 人
防災教育の対象者の属性	小学生 (高学年)
防災教育の対象者の人数	約 36 人
実践を行った都道府県と市区町村	京都府 京都市
実践を行った具体的な場所	京都市立正親小学校 教室・校庭
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	消防士・P C・消防倉庫の中身・A E D・消火器

達成目標 社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	災害が身近なものであること、いつ何があるかがわからないことなどを 知るとともに、災害から守ろうとしている人がいることやそれぞれの人の 思いを知り、これからの学びの主体性を生むことができる。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに



該当しないものを削除し該当するものを1つ残す	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法 これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください 適宜写真や図表等を入れていただいて構いません	○区役所の方に話を聞こう…自助・共助・公助 最初に区役所の人に災害とはどんなものか、防災って何かについてのお話を聞く。震度とマグニチュードの違いについて絵を使ってわかりやすく教えてもらう。次に地震が起きた時の一時災害・二次災害についての話、そして阪神淡路大震災の時の写真や映像など話を聞いた後、自助・共助・公助という言葉とともに、自分たちにできることを投げかけてもらった。そして、共助として身近に消防分団の人がいることを教えてもらった。 今日のお話 1 震度(しんど)とマグニチュード 2 地震が起きると 3 阪神・淡路大震災 4 わたしたちができること 震度(しんど)とマグニチュードの関係 電球→マグニチュード 明るさ→震度 震度/小 ← → 震度/大 いちじさいがい 二次災害 どうも、てつどう道路や鉄道のストップ ライフラインの被害 4 わたしたちができること	大いに マグニチュードのちがい M6.0 M7.0 M8.0 約3.2倍 約1,000倍 マグニチュードが1増えるとエネルギーは3.2倍!! いちじさいがい 一次災害 えきじょうのけんしゅう 液状化現象 つなみ 津波 3 阪神・淡路大震災 自助・共助・公助 自助(じじょ) ・「自分の命は自分で守る」 →事前の備え →非常持出し袋や非常食の準備 →家具の転倒防止など ・自助は防災の基本 →まずは自分を守る! →家族や友だち・隣の人を助けに行くことができる! 「助けられる人」でなく、「助ける人」になる!
	○消防団の方の話を聞こう…備え・訓練 区役所の人に聞いた正親の町の消防分団の人の話を聞き、訓練の様子や、防災倉庫の中身を見せてもらった。その中で、「君たちも消火器くらいは使えるようになってほしい。」「AEDは子どもでもできる。」と	



	言うことを聞き、自分たちもしたくなった。 ○A E Dや消火器が使えるようになろう 自分たちもA E Dや消火器が使えるようになりたいと消防署の人に 来てもらうことになった。 ○持ち出しに何を入れるか考えよう	
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	今まで他人事だった災害について話を聞き、防災にかかわっておられる方から話を聞いたり、その体験をしたりする中で、災害を自分事としてとらえるようになってきた。また、自分たちに何かできることがありそうだと、さらに調べていきたくなってきた。	
どのくらい身につきましたか？ <u>該当しないものを削除し該当するものを残す</u>	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性	大いに 大いに 大いに
課題・苦労・工夫 やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください	教師が路線を引くのではなく、子どもがやりたくなるように単元の流れについてゲストティーチャーと事前の打ち合わせを綿密にし、「○○をしてみたら？」「○○にお話を聞いて、道具を見せてもらってごらん。」「A E Dも使えるようになってほしい…」など次に体験させたいことについての提案をしていただくなど、児童の方が自らがしたくなるように、体験を重ねることができるようにした。また、切実感を持たせる体験	



	と楽しくなるのめりこむ体験の両方を組み合わせていくことを工夫した。
--	-----------------------------------

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について <u>1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください</u>	
関係者の名前・団体名	京都市上京消防署北野出張所（木下）
関係者の説明	A E Dの使い方・消火器の使い方
関係者の連絡先	075-465-0119

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について <u>1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください</u>	
関係者の名前・団体名	正親消防分団 野村 重夫
関係者の説明	地元の消防団の分団長
関係者の連絡先	075-431-2740

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について <u>1つの実践事例に複数の関係者がいる場合には関係者の数だけ表をコピーして記入してください</u>	
関係者の名前・団体名	上京区役所 平田幹生係長
関係者の説明	総務防災担当
関係者の連絡先	075-441-5029